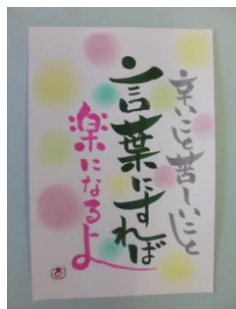


がっ ど い り ん ぼ か ん
10月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 ｽﾛ-ｲﾌﾋﾞｯｸ 10:00～	4	5
6	7 ｸﾗﾌﾄ ﾊﾝﾄﾞ教室 10:00～	8	9 じんけん 人権のつどい 19:00～	10 ｽﾛ-ｲﾌﾋﾞｯｸ 10:00～	11	12
13	14 ｽﾎﾟｰﾂの白	15	16	17 ｽﾛ-ｲﾌﾋﾞｯｸ 10:00～	18	19
20	21	22	23	24 ｽﾛ-ｲﾌﾋﾞｯｸ 10:00～	25 じんけんざんかい 人権座談会 18:30～	26 もっこうきょうしつ 木工教室 10:00～
27	28	29	30	31		



りんぼかん かざ
隣保館に飾っています。
こころあた ことば げんき で
心 温まる言葉・元気の出
ことば やさ ことば
る言葉・優しい言葉 そうい
ことば おお つか
う言葉を多く使いたいです。

ど い り ん ぼ か ん しやかいふくしほう ちと ちいきじゅうみん しやかいふくし
土居隣保館は、社会福祉法に基づき地域住民のコミュニティセンターとして、社会福祉の

じゅうじつ そうしん はか どうわもんだい じんけんもんだい かいけつ はか せっち
充実や増進を図るとともに、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決を図るために設置

しせつ おお ひと こうりゅう はか だれ す ちいき きよてん かつどう
された施設です。多くの人々が交流を図り、誰もが住みよい地域づくりの拠点となるように活動し

りんぼかん そうだんじぎょう かくしゅこうざ かくしゅかい かしかんじぎょう じんけん ふくし
ています。隣保館では相談事業、各種講座や学習会、貸館事業など「人権と福祉のまちづくり」

じつげん む じぎょう と く みな らいかん ま
の実現に向けて、さまざまな事業に取り組んでいます。皆様のご来館をお待ちしています！

ど い り ん ぼ か ん だ よ
土居隣保館便り

れいわ ねん
令和6年

10
がっごう
月号

はっこう ど い り ん ぼ か ん どいちょうふじわら
発行:土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356

ど い ち い き こ かいごうどうこうりゅうかい
土居地域子ども会合同交流会

かいさい
サマーキャンプを開催しました。

かくちく こ かい たが じんけん そんちよう さべつ み ぬ さべつ ゆる
各地区の子ども会において、互いの人権を尊重し、差別を見抜き差別を許さない

がくしゅう かき じどう せいと つど さべつ ゆる おも なかま
学習を重ねている児童・生徒が集い、いじめや差別を許さない思いでつながる仲間

れんたいいしき たか
の連帯意識を高めました。



ことし じどう せいと にん せんせいがた にん き
今年は児童・生徒19人と先生方15人が、サマーキャンプに来てくれました。

サマーキャンプでは、じゃんけん名刺集め、モルック、じゃんけんビンゴゲーム、



The Best Paper City

感謝、そして未来へ

みすてっぼう まと ぎゃくてん ちゅうしょく
水鉄砲で的あて、逆転ゲームをしたあと、昼食でセルフおにぎりをいただきました。

こ たち ほか がっこう こ なかよ ほんとう しんけん たの はじ
子ども達は他の学校の子とも仲良くなり、本当に真剣にゲームを楽しんでいました。初め

てのゲームでうまくいかないこともありましたが、みんなで協力し合いながら困難に

立ち向かっていました。また、年上の子が年下の子を励ましたり応援したりする場面もた

くさん見ることができ、温かい気持ちになりました。「失敗しても大丈夫。みんなで何と

かするけん」という言葉が印象に残っています。

むじゃき すなお こ しょうらい じぶん えがお せいかつ しゃかい つく
無邪気で素直なこの子たちが将来、自分らしく笑顔で生活できる社会を作っていきた

いと思いました。人が作った差別をなくせるのは人だけです。差別をなくしていく人をも

っともっと増やしていこうと改めて感じたサマーキャンプでした。



サマーキャンプの感想を抜粋して紹介します

ほか がっこう ひと あそ き かい
他の学校の人と遊べる機会がないので、サマー
キャンプで他の学校の人と遊べて嬉しいし楽し
かったです。

みんなと喜んだり、落ち込んだり、とにかく楽しかったです。同じ班には知
っている子だけだったので、他の子とはあまり話せなかったけど、知っている子
との絆が深まった気がしました。

みすてっぼう たの
モルックと水鉄砲が楽し
かったです。玉子焼が
おいしかったです。
ともだち
お友達ことができました。
らいねん
来年もやりたいです。

まなつ よる がくしゅうかい 真夏の夜の学習会

ことし がつ がつ ごうけい かい りんぽかながくしゅう かいさい ど い ち い き
今年も7月と8月に合計4回、隣保館学習が開催されました。土居地域の

しょうがっこう ちゅうがっこう しゅうがくぜん きょうしゅくいん さんか さべつ げんじつ まな とお
小学校・中学校・就学前の教職員が参加し、差別の現実に学ぶことを通し

て、きょうしゅくいんひとり じんけん どうわもんだい たい ただ にんしき ふか
教職員一人ひとりが、人権・同和問題に対する正しい認識を深めるととも

に、さべつかいしょう む じぶん かんが こうどう たいせつ
差別解消に向けて自分にできることを考え行動していくことの大切さを

かくにん たこう きょうしゅくいん かた あ ひろ しや た
確認しました。また他校の教職員と語り合うことにより、より広い視野に立つ

てじんけん どうわもんだいかいけつ む こうどう はな あ
て人権・同和問題解決に向けての行動を話し合いました。

ことし どうわもんだい さまざま じんけんもんだい きょうしゅくいん
今年のテーマは「同和問題をはじめとする様々な人権問題に教職員として

どのように向き合っているか」でした。

がくしゅう なか ひと かの ちが かんが かた ちが じぶん かけ かん
学習の中で、「人はそれぞれ顔が違うように考え方も違う。自分の価値観・

じんけんいしき かんが ただ かくにん ほか ひと いけん き
人権意識・考えが正しいかの確認をするためにも他の人の意見を聞くことがで

きる学習の場が大切である。」「子どもは大人を見ている。大人の中にある

じんけんいしき つね あたら もの さべつ さべつ み す
人権意識を常に新しい物にして、差別したり差別を見過ごしたりすることのな

い教育が必要である。」「教育していく中で、当たりさわりのない返答は

むかんしん おな め まえ もんだい に む あ
無関心と同じである。目の前の問題から逃げずに向き合い、おかしいことはおか

しいと言える、何でも話ができる仲間作り・関係作りが大切である。」などの

いけん だ さべつかいしょう む かっぱつ いけんこうかん おこな
意見が出され差別解消に向けての活発な意見交換が行われました。

わたし ほか だれ じぶん なに かんが
私も「他の誰かがやってくれる」ではなく、「自分に何ができるか」を考

え、ひと さべつ は い かた がくしゅう つづ
え、人を差別するような恥ずかしい生き方をしないためにも学習を続けていき

ます。
しゅじ たかはし けんたろう
主事 高橋 建太郎